

電池電
放電
2次の
充の

30kW級でも試験可能

マックスステ
ムズと大同工大

検査装置を開発

【名古屋】マックス

テムズ（名古屋市中区、

辻武彦社長、052・2

23・2811）は、大

同工業大学と共同でハイ

ブリッド車（HV）や電

気自動車（EV）向けの

2次電池の充放電試験検

査装置（写真）を開発し

た。自動車メーカー各社

のHVやEVの開発強化

に対応する。価格は80

0万円。国内の自動車関

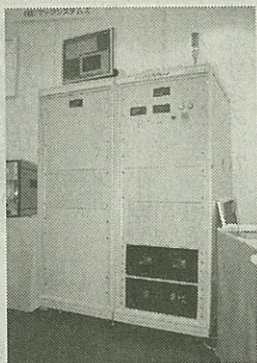
連・電池メーカーに初年

度20台を売り込む。

32ビット縮小命令型コンピ

ューター（RISC）対

応の中央演算処理装置



（CPU）を内蔵。パル

ス幅変調（PWM）制御

によるインバーター方式

イオン電池などを試験す

る。

放電時には試験対象と

容量電池の充

放電試験が可

能。HVやE

Vへの搭載を

目指し開発競

争が激化して

いるリチウム

充電時にためた電気を電

池に送る回生機能を備え

る。これにより消費電力

を抑制できる。

同社は電子計測器の商

社。電池試験装置など検

査装置の製造も行ってい

る。先端分野の電池試験

装置を投入し、事業拡大

に加え、新たな技術情報

の蓄積を図る。